

松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

2024年 11月 1日 発行

松蔭中学校・松蔭高等学校

校長 浅井宣光

あなた方の中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になりなさい。いちばん上になりたい者は、皆の僕（しもべ）になりなさい。

（マタイによる福音書 20:26～27）

「選挙に行きましたか？」

今週の初め、校門で生徒を迎えながら高校3年生の顔を見つけては尋ねてみました。先月27日の衆議院議員総選挙では、高3学年の約6割の生徒が満18歳を迎えて選挙権を得ています。「初めての投票に緊張した」「あつという間の投票でした」「有権者を実感」「大人になった気分」とロクに答えてくれました。一方で「いえ、実は行ってなくて」と打ち明ける生徒もいました。「3月生まれなので卒業式（来年の3月1日）が終わっても…」と、もどかしげな声も聞きました。マスコミ各社の出口調査ならぬ、私の個人的「朝の校門調査」によると、高3生の有権者のうち約8～9割が投票、1～2割が棄権といったところでしょうか。総務省によれば、今回の選挙の投票率は53.85%で戦後ワースト3の低さとのことです。比較的高い「投票率」にひと安心です。高校時代の人生初の投票経験は、政治に対する「当事者」意識を着実に育むステップではないかと思えます。



左の写真は職員室前廊下の掲示板のポスターです。モデルの女子高生が力強い視線でこちらを見つめています。大書された「18歳をナメるな」という刺激のかつ攻撃的キャッチコピーが目にとまります。2016年の参議院選挙から18歳選挙権が導入され、学校における主権者教育（中高生の政治的リテラシーや政治参加意識を育成する教育）の必要性が説かれ、本校を含めて各学校では、社会科の授業をはじめ、選挙管理委員会による出前授業などが行われています。

「主権者教育」の第一歩 未成年でも選挙に触れる経験を

「自分の一票を投じる」経験として、生徒会役員選挙があります。毎年2月、全校生参加のもとで次期生徒会役員立候補者による立会演説会が講堂で行われます。演説会終了後は、教室でタブレットからの電子投票です。電子投票はこれまでいくつかの地方自治体選挙で実施された例があり、今後の選挙でも採用されるかもしれませんので、将来にそなえた訓練でもあります。

先日、米国に留学中の生徒から定例のマンスリーレポートがメールで届きました。現地では今月11月が大統領選挙と上院議員選挙が行われる「選挙の月」とのことで、投票を呼び掛ける戸別訪問や郵便物書きといった、日本では体験できない取り組みをしたそうです。また、大統領選挙の候補者の“rally(選挙集会)”も見学する予定だと記していました。将来、留学期間を終えて帰国した彼女が満18歳を迎えて選挙権を得たとき、今回の米国での経験が選挙や政治に対する意識に深みと幅広さを持たせることを確信しています。未成年のうちから選挙に関わる経験がポイントです。

昨日、放課後のアSEMBリー（生徒集会）の冒頭で全校生に次のように話しました。兵庫県では今月も知事選挙が予定されているので、有権者の高3生はぜひ投票してください。有権者ではない高3生と下級生に皆さんは、家族と一緒に投票所に足を運んでみてください。

保護者の皆様、ぜひご息女を「ちょっと投票所に寄ってケーキでも買いに行こう」とお誘いください。投票所に行く経験は、将来の投票の「敷居」を低くするように思います。未成年のうちから選挙の実際に触れてみる経験を。ご協力をお願いいたします。